

と言った。
それから、「鉄はねずみの曳く。馬はケラの曳く」と、
いうことげな。

(野村 高森アヤ)

糸脈同心(その他の話)

むかし。

あるところに医者が住んでおったと。

その医者は、直接に病人の手を握って脈を測らないで
も、病人の手に糸を結んで、その糸を引張っておれば、
病名がわかるというほどの名医だった。その医者は、た
いへん繁盛して糸脈同心と呼ばれていた。

ある日、糸脈同心の評判が殿様の耳に入った。殿様は、

糸脈同心を城に呼び出して、

「お前、糸でんわかつ。姫の病気を治してくれ。も

し、治しきらんやったら、お前は打ち首ぞ」

と、酷いことを言い渡された。

糸脈同心は、打ち首になってはと、たいへん心配にな

った。糸脈同心は、どうしたらよいだろうかと思ってい
ると、家来が隣の部屋から糸を引張って持ってきた。家
来は、その糸を糸脈同心に手渡した。すると殿様は、

「さあ、おまえは糸でわかるはずだ。姫の病気を治し
てくれ」

と言った。

糸脈同心は、その糸を握っても、どうしてもわからな
かった。そして、どうも人間の脈とは違うことを悟った。
ところが、糸脈同心は、わからないと言うと、打ち首に
なるから、いろいろと考えていたところ、

「ああ、わかった」

と、殿様に言った。ちょうどその時、ねずみが天井から
落ちてきた。糸脈同心は、そのねずみを取りあげて、

「病人には、これを食べさせてください」

と言って、それを殿様に差し出した。

殿様は、糸脈同心の名医ぶりを試そうと、糸を姫の手

にはなく、猫の手にくくらせていたので、

「おまえ、なるほど名医だ」

と申された。そして、殿様は糸脈同心に褒美をくださっ

た。

そいばあっきゃ。

(下早 古賀八郎)

七 伝 説

伝説は、一族や集団の出自や信仰事実を伝えるため、支持する人に向かって口承で語られた物語で(『神話伝
説辞典』)、町内においては、採集数もその分布も少ない。

分類すると、「地名起源伝説」の〈中津の地名〉〈米納津の地名〉、「弘法伝説」の〈エツの魚の話〉、「徐福伝
説」の〈金立さんの話〉〈徐福伝説(1)(2)〉、「人柱伝説」などがあり、柳田国男の分類法によると、「木の部」
の〈おのえの松〉、「水の部」の〈エツの魚の話〉〈水天満宮のお礼〉〈養老の滝〉〈淀姫さんの話〉「祠堂の
部」の〈お地藏さんの話〉〈和崎のイボ観音〉〈毘沙門さんの話〉〈親鸞上人の話〉〈此荷さんの由来(1)(2)〉
〈乙姫伝説〉〈加仁町の天満宮さん〉などになる。

「人柱伝説」は、道免・中津・北早・下早・崎ヶ江で採集できたので、その分布圏であるといえる。此荷さん
と結びつき、「龍造寺隆信の話」は犬井道に分布する。「大友宗麟の話」は道免に分布する。

「徐福伝説」は諸富町搦を中心として分布し、町内にも伝承されたことが明らかである。

「伝説」の中から再話して記す。

人柱伝説

元禄十六年の申の年、下早と中津の渡し場の中間あたりに堤防があった。その堤防が台風と大雨のため決壊してしまった。

地元の人々は、堤防修理に努めたけれども、水がどうしても止まらなかった。そのため当時の庄屋さんが、

「私故人柱に立つ」

と言った。そして庄屋さんが人柱に立つことになったけれども、その奥さんが、

「あなたがここに人柱に立つてもらえば、後を治める人が誰もおらん。だから、私があなたの代わりに立ちます」

と言った。

そして、奥さんが人柱に立った。すると、不思議にも水は止まった。村の人々は庄屋の奥さんに感謝した。村人の一人が、

「こりやどうしても、その人のために毎年供養をしてやらんといかん」

と言った。村の人々は、供養することに賛成した。

村の人々は、下早の土居の曲がったところに石の祠を祭り、その側に榎の木を植えて八龍大明神さまを祭った。

村の人々は、庄屋さんのおかげで毎年、米も豊作になった。

それから、八龍大明神という旗と、志賀大明神という旗を掲げて戦いに行くと、負けたことがなかった。

(下早 古賀八郎)

八民

謡

民謡は民衆の共同生活の中で生まれたもので、特定の作曲・作詞者の個性的な創作意識は問題とならない。従って作者の名も明らかにすることはできないものである(『神話伝説辞典』)。民謡の歌詞の中に地方的、風土的な要素が巧みに表現されている。

町内で採集した民謡を分類すると、次のとおりである。

仕事唄―田植唄(田の草取り唄)・木びき唄・棉もり唄・ワラスボ取り唄

祝儀唄―浮立唄・相撲甚句・長持唄・かまぶた被せ唄・嫁さん茶講唄・お祝いの唄・まだらの唄・もぐら打ち

唄・七福神の唄

座敷唄―犬井道名所・呉服のみなどの唄・犬井道の唄・大詫間の唄・大正擲の唄・スットントン節・ヨイシヨ

節・セメント会社・端唄・トンボの目・チヨイチヨイナ

わらべ唄―手まり唄・お手玉唄・お月さん幾つ・お月さん・羽根つき唄・セッセ・尻取り唄・七夕唄・草履隠

し唄・今日は日のよか・かごめ唄・ばあつきや唄・数え唄・井戸のつるべ唄・子守り唄

町内の代表的な民謡と思われるのを記す。